

■事例② 聖キアラ修道院: 図書館

聖キアラ修道院は、中世に建てられた女性のための修道院であった。この建物は、前世紀において学校施設として長く使われてきた。近年には、大々的な修復工事が行われ、チッタ・ヴェッキア地区にあった手狭な図書館が、2008年10月、ここに移転されてきた。マッサ・マリッティマの図書館は、1867年に誕生しており、当時もこの聖キアラ修道院に置かれていたという。つまり、もともとの場所に戻ってきた、というわけである。

聖キアラ修道院の修復に関しても、市役所同様、外観はそのままを保ち、内観を大きく転換させている。図書館に併せて、会議や講演会ができるようなスペースもつくられた。2008年にいったんオープンした図書館であるが、その後も修復が続けられ、より広いスペースが確保されて、2014年5月に再オープンしている。

現在、メインの閲覧室は、かつて聖堂が置かれていた場所であり、高い天井を持ち、縦に細長い、教会堂特有の窓が開いている。ここでは講演会やミニ・コンサートなども可能である。閲覧スペースの奥には、イタリアの国旗が掲げられ、国家統一運動の英雄ガリバルディにゆかりの品の展示ブースが設けられている。絵本や児童書が置かれる閲覧室は別にあり、その部屋の窓からは美しい田園風景を望むことができる。

この図書館には、中庭に面した明るい部屋や、くつろぎのスペース等もあり、単に図書を借りに来るだけのところというよりも、市民が集まる場所として活用されている。特に学校を終えた小・中・高校生が宿題のために集まって過ごす姿が目立っている。



※20世紀初め頃



図 4-5 聖キアラ修道院の外観(上)と現在の図書館 (左下)メインの閲覧室 (右下)子供用の閲覧室

■事例③ 城壁: 旧市街へのアクセスビリティの向上

まず「シエナの要塞」が現在どのようになっているか、ということから伝えておきたい。祭りの話の中で、二重になっている壁の内側が、現在「カッセロ(天守閣)」と呼ばれる屋外劇場があることを知らせたが、その上にも、登ることができるのだ。

時計の塔からアクセスし、「シエナのアーチ」の上を渡り、要塞にアクセスする。その上からは、素晴らしいパノラマ風景が望めるので、多くの旅行者たちが訪れる絶景のスポットである。ここはミュージアムの一部となっており、時計の塔で入場チケットを購入してから、登ることができる。内部には、かなりの急な階段がらせん状に巡らされており、梯子を上るような急なところもある。



図 4-6 「時計の塔」外観(左)内部階段(中)、「シエナの要塞」上部からアーチを望む(右)

シエナの要塞は早い段階から、その価値を見出されていたが、近年になって、マッサ・マリッティマのコミュニエは、城壁全体を修繕しようという動きに出て、コンペを行い、ミラノの建築家トロイージ氏 studio MTAA arch Antonio Troisi の案が採用された。マッサ・マリッティマには、イタリア国内においても珍しく、城壁がよく残っているわけであるが、中世のそのままの構造を保存すると同時に、現代の要求にも応えていく戦略をとる。下は「聖ベルナルディーノの市門 La Porta San Bernardino」の修復例であるが、城壁の際に駐車場があり、旧市街の外と内を繋いでいく役目を果たしている。ここを上がれば、一気に大聖堂広場にたどり着く。



図 4-7 修復後の「聖ベルナルディーノの市門」